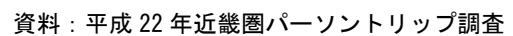
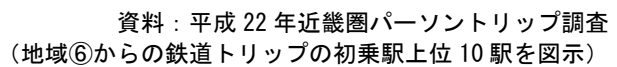


約４割と多数のトリップがＪＲ大正駅を利用している。移動先としては、大正区内や港区が多く、長距離トリップはあまりみられない。



＜地域⑦＞

J R大正駅を利用するトリップが最も多く、約3割となっている。大正区外へと向かうトリップはあまりみられない。

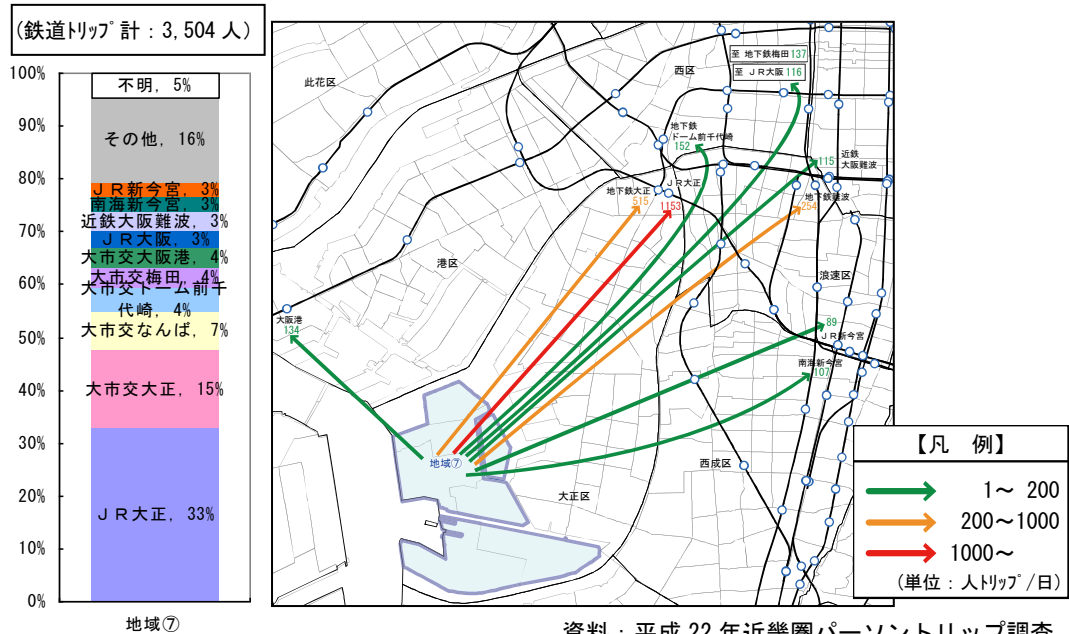


図 2-18 沿線地域からの初乗駅構成比と初乗駅分布＜地域⑦＞

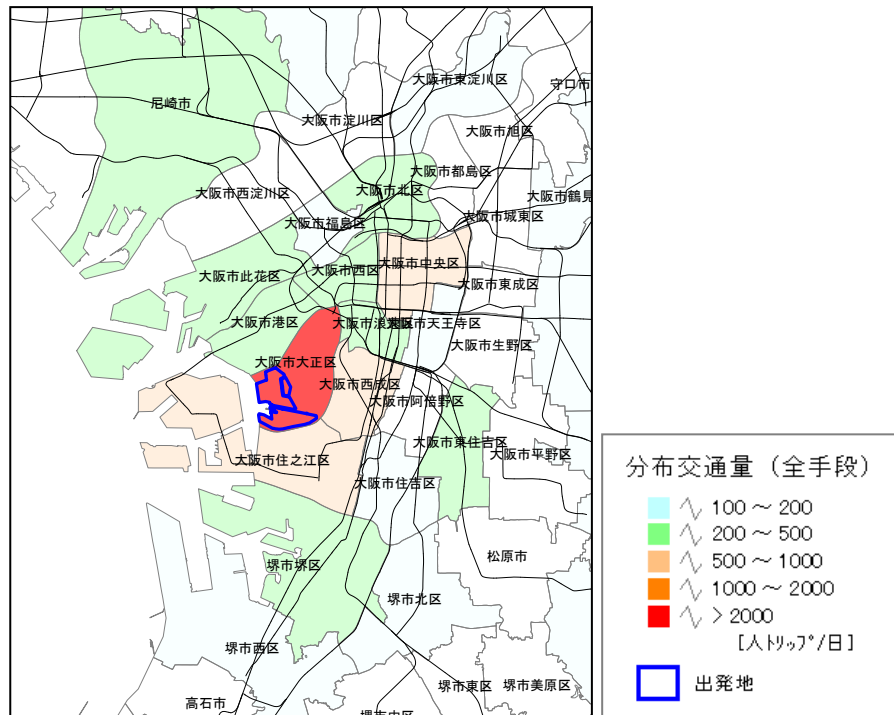


図 2-19 沿線の地域別目的地分布・全交通手段トリップ＜地域⑦＞

③ 延伸区間のバス系統

(現状)

延伸区間のバス路線は、平成 22 年時点で往復 1186 本/日運行しており、多くの系統が大正橋停留所～鶴町四丁目停留所の区間で重複して運行し、延伸区間とほぼ並行している。また、その延伸区間の輸送人員（延伸区間へ流入もしくは延伸区間で乗車）は、約 33 千人/日となっている。

運行系統	運行本数			
	鶴町四(方面) ⇒大正橋(方面)	大正橋(方面) ⇒鶴町四(方面)		
70	64	63		
70急	44	57		
71	135	136		
72	11	9	※1	
72A	5	7	※1	
75	32	33		
76	29	30		
80	28	29	※1	
90	43	43		
91	9	6	※1	
91急	35	37		
94	19	20	※1	
98	31	31		
98A	4	5	※1	
108	40	39		
49B	6	6	※1	
55	49	51		
小計	584	602	合計	1,186

※1:朝夕時間帯のみ運行・運行回数が少ない系統
 注)第7号線延伸部を一部でも併行運行するバス系統を抽出した

	鶴町四(方面) ⇒大正橋(方面)	大正橋(方面) ⇒鶴町四(方面)	輸送人員
流入	3,317	6,805	33,376
乗車	13,362	9,892	

図 2-20 第7号線延伸区間のバス系統

(推移)

延伸区間の輸送人員は減少傾向にあり、平成 4 年と比較して、約 2 万人/日が減少している。

表 2-6 第7号線の延伸区間のバス利用者数の推移

		鶴町四(方面) ⇒大正橋(方面)	大正橋(方面) ⇒鶴町四(方面)	輸送人員	運行本数
平成4年	流入	4,799	10,037	53702(100)	1485(100)
	乗車	22,099	16,767		
平成10年	流入	4,769	9,389	49030(91)	1404(95)
	乗車	19,546	15,326		
平成22年	流入	3,317	6,805	33376(62)	1186(80)
	乗車	13,362	9,892		

資料:交通調査結果による

注)第7号線延伸部を一部でも併行運行するバス系統を抽出し、第7号線延伸区間のバス利用者を抽出した。

()は平成4年を100とした場合の値

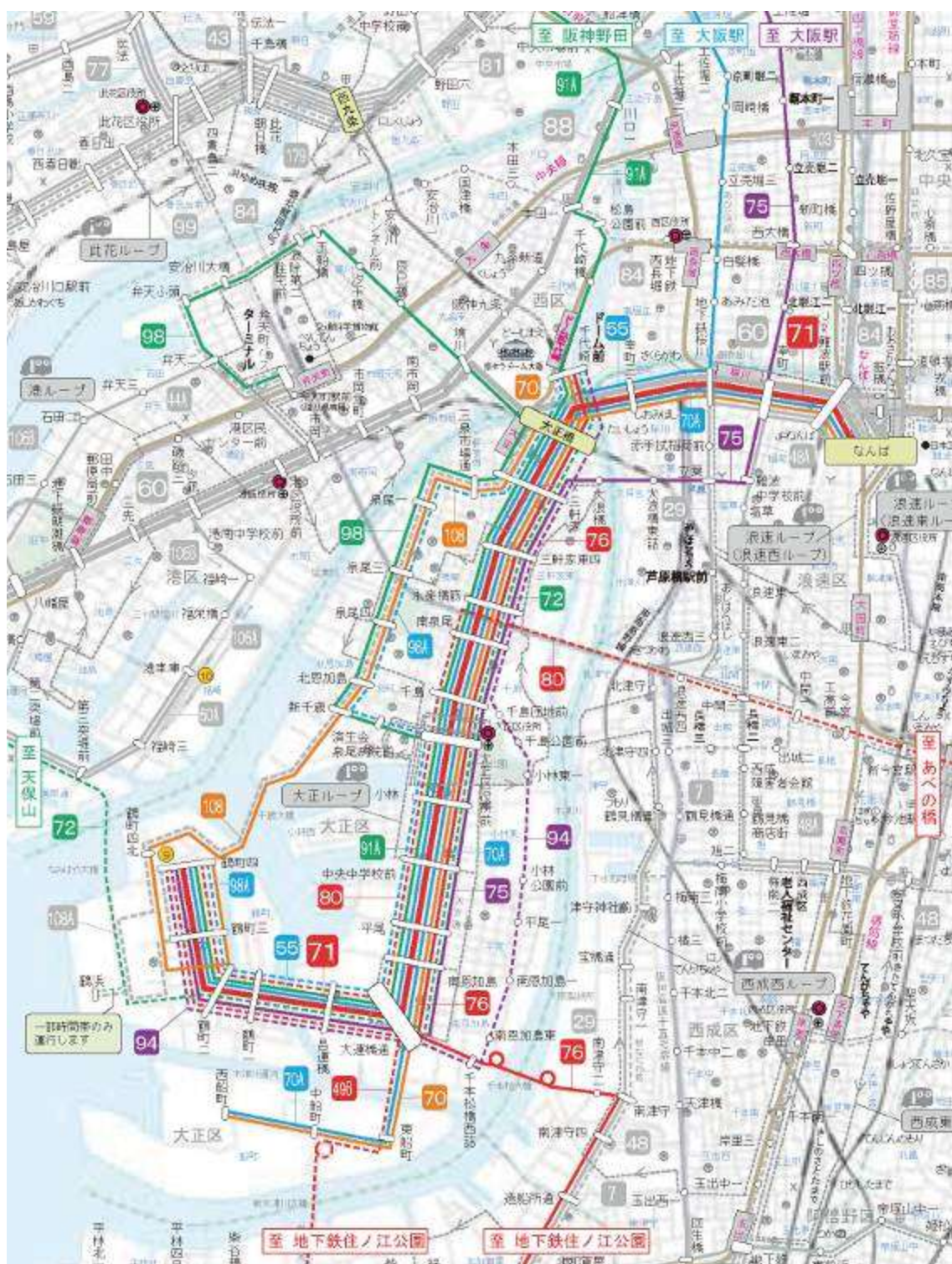


図 2-21 第7号線延伸区間のバス路線図(平成 22 年時点)

(5) 沿線の特徴と今後の課題

沿線地域は鉄道利用不便地域となっているが、延伸区間は、都市新バスが運行し、一日1千本以上のバスが走行しており、沿線区間のバス利用者は3万人を上回る。

しかしながら、沿線は高齢化の進展が激しく、鶴浜の開発が進捗していないため、第7号線の延伸においては、中長期的な需要の喚起・創出などの観点からの検討も必要である。



図 2-22 第7号線延伸沿線の特徴と課題